

## 食足世平 (しょくそくせへい)

元町 新井竹子

九条の会さかどの「早春のつどい」に私は何回も参加してきたが、今年の参加者は違っていた。若い方も結構いて、最初からの参加者は僅かだった。この会もいよいよ変わってきたということなのだろうか。飛び出す話もなかなか面白かった。

NHKの朝ドラを話題にしていたから、NHKのことが色々取り上げられていた。NHKだけではなく、本当のことを知ることに不足があるのではないかというのが大方の意見であったが、NHKの上部は別として、職員は真面目であると主張している方もあり、そのとおりだと私も思う。特に国会中継はいい。あそこには真の姿が見られるという方もあった。なるほどと思う。

朝ドラの中に見られる戦争にも、真の姿が現れているのではないかというのが、皆さんが一致するところであった。

今、放映されている『まんぷく』の、元となる人“安藤百福”が造語したという「食足世平」(食足りて世は平らか)が紹介された。これは、本日の話題提供者の大山茂さんが探してきた言葉だ。これはやがて日清食品の企業理念となったという。

今日、「文学で戦争は止められる」と言っている作家(筈野頼子)もいるが、九条の会さかどでドラマを話題としたのは先進的取り組みであると言えるのではないだろうか。これからも、文学的なものにも積極的に挑みながら、憲法を守り、平和を維持していくことに取り組んでいきたいものと思う。

## 辺野古新基地に活断層？

山田町 小林忠夫

日本政府が強引に建設を進めている沖縄の「辺野古米軍新基地」周辺には、活断層の疑いがある辺野古断層と楚久(すく)断層が確認されている。両断層は併走して陸域から海域に延び、新基地埋め立て予定地の軟弱地盤付近で交わると推定されている。

沖縄県や「オール沖縄」の皆さんからはこれらの断層調査の要求がだされ、国会でも野党から質問が出されてきたが、政府は活断層の心配は無いとして調査を拒否し、基地建設作業を強行している。

こうした状況の中、立石雅昭氏(新潟大学名誉教授)の呼びかけで、地学団体研究会と応用地質研究会の会員有志12名による「辺野古周辺断層調査団」が結成された。数回の準備・学習会を経て、2019年3月1日～4日現地調査を実施した。

以下は、調査団の一員として参加した一団員の参加記である。

現地調査は、

1. 断層班：辺野古断層は大部分が米軍基地内にあり立入りができないので、併走する楚久断層が確認されている谷で断層面の確認。
2. 地盤変動班：両断層の東側と西側で、段丘の高度や段丘堆積層と層厚の確認。
3. 海食崖班：ノッチやベンチの高度や発達状況の確認、の3班に分かれて実施され、夜全員でまとめ、という方式ですすめられた。

調査には夜の部も含めて現地「オール沖縄」から5～6名が参加され、有意義な交流ができた。

調査の結果は、両断層の東側と西側では段丘面とその堆積層の形状に違いがあること。ノッチやベンチの形状などからも、この地域は地盤変動が頻発した場であり、両断層はやはり活断層の可能性が高いと判断された。

調査のまとめは現在進行中で、まとめは国や沖縄県に提示して、トレンチ調査・音波探査などの本格的な調査の必要性を提言する予定である。

なお、強行している海域の埋立てと軟弱地盤の問題も「オール沖縄」の皆さんと検討を進めており、今回の調査の結果とあわせて続編で紹介したい。

それにしても、何故こんな悪い地質条件の場所に膨大な国の税金をつぎ込んで、あえて「巨大米軍基地」をつくるのか。日本国憲法9条を否定する蛮行に、現地を踏査しながら強い怒りがこみ上げてきた。

## 語り継ぐ会の感想から(2)

- ◆ 田中一枝さんのお話しは、女子高等学校時代の工場動員でのジュラルミンの板金加工についての苦労談を中心に、当時を思い出しながらのお話でした。空襲におびえ、食料難に苦しんだ青春時代、「早く戦争は終わって欲しい」とだけ願って過ごした実感を強く感じました。

## 九条の会さかど 14周年のつどい

日時 6月9日(日曜日)13時30分～16時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)

内容 埼玉の基地問題 入間、所沢、そして沖縄

私も小学生時代前半を過ごした戦争末期のことを思い出しつつ、お話を聞かせていただきました。ありがとうございました。(石川)

- ◆ 日頃市民として、また議員として活動する中で、様々な場で田中一郎さんのお名前をうかがうことがあります。そのため、今日はその奥様である田中一枝さんにお会いできることを楽しみにしてきました。

お会いした田中一枝さんは、91歳にはとても見えないほどお若く、声も大きく、話も簡潔で分りやすく、ご本人の言われるように125歳まで生きられるのではないかと思います。

今日の質疑応答で「こういう会には若い人が来ない」との意見が出たが、気持ち面で考えると、田中一枝さんが一番若いのではと感じた。

様々な会で参加者が講演者の話をしっかり聞いていない。自分の意見だけ言うことがよく見受けられる。そういったことは考えものだと思う。

- ◆ 新潟県から東京の中野に来たのは、平成に変わる頃。ある診療所で検診を受けた折に、看護師たちが話し合っていた。平成を分解すると、それは盾と鉾であり武器を表す。すなわち戦争を意味すると。そこまで分析しているとは！

今度はどんな元号になるのだろうか？ 私には元号はわずらわしい。西暦だけで良いのではないか？(西坂戸 高橋正宏)

- ◆ 田中一枝さんは、90歳でしっかりした声で語っておられて素晴らしいと思った。昔のことも具体的に語られていて、その時代をあらためて知ることができ、戦争をやっている時代は子どもたちが子どもとして生きることができなかったのだとわかった。

田中さんの女学校時代に、学習ではなく飛行機工場で働かされていたというのだから、ひどく情けないことだ。女学生にこんなことをやらせる国にがっかりしたという。

現代もうかうかしていると、田中さんの生きた時代のようになるかもしれないのだ。選挙をがんばらねばと思う。国会を見ている選挙で勝っていないければ何もできないのだから。(新井竹子)

## ビキニ被爆を風化させない(2)

末広町 石川裕一

### 因果関係認めず

1954年3月、アメリカはミクロネシアのビキニ環礁で2ヵ月半にわたり水爆実験を実施した。当時その海域では、日本のマグロ漁船がはえ縄漁を行っていた。焼津の第五福竜丸は3月1日未明、爆発の火柱に起こされて、その後、放射能を含んだ死の灰を浴びた(詳細は3月号参照)。

帰港した船体からも船員やマグロ魚体からも大量の放射能が検出され、被爆は明らかであった。船員のほとんどが肝臓がんなどで治療を続けた。治療にあたった日本医師は「急性放射能症」と診断したが、アメリカ側は「輸血による肝炎」として、病気と水爆実験との因果関係を認めようとはしなかった。しかし、事実を知った直後のアメリカの対応は素早かった。

## 被爆封印、報道検閲

3月17日、アリソン駐日大使は外務省を訪れて次のような申し出を行なった。「アメリカ側は安全保障問題を重視している。第五福竜丸の秘密を保持してもらいたい」「関係者の外部への発言を審査し、検閲するようにされたい」と情報統制を求めた。病床で不穏な動きを感じていた三崎吉男さん(当時28歳)は「一步踏み誤ったら我々は大きなヴェールに包まれ闇に葬られるだろう。慄然として身震いがする」と日記に記している。さらにアメリカはビキニ実験では一切違法行為はなかったと主張して5月21日「国際法上の違法行為についてはいかなる立場からも取り得ないので、損害賠償としての支払いはできない。慰謝料として支払うという建前を取りたい」と表明。日本人漁船員を人間として考えていなかったとしか思えない無法な態度であった。

## アメリカ言いなり政治的決着

12月、アメリカからの提案には次の2点を公文書に明記するように注文が付けられた。「1. 本件補償は人道的考慮と米側好意に基づき、法律上の責任を一切度外視して行なわれる。2. 不幸にして更に犠牲者が出て追加の支払いは行なわない」。これに対して翌年1月、鳩山内閣は「日本政府は200万ドルを全ての請求に対する完全な解決金として受託する」と表明。見舞金は一人平均200万円。これでビキニ被爆は完全に封印されたのであった。被爆者の一人、大石又七さんは「なんてひどい国だ、情けない…」と思ったが、当時はアメリカが全て正しく、日本はそれに従うのが常識だった。死んだ人たちは本当に可哀相だ」と無念の思いを語っている。(次号に続く)

## 核のゴミ どうするの？

### 原発と核のゴミを考える学習会

地団研の専門家が、市民の皆さんに訴えます。

#### 講演1 原発と核のゴミ問題の行き先は

原発地では、核のゴミがつくられ続けている。強力な放射能を帯びたゴミは何万年何十万年にわり人間に害を与え続け、近寄ることができない。このゴミの隔離はかなり困難、地中に埋めれば済むというものではない。どうすべきかを考えたい。(関根一昭)

#### 講演2 原発の汚染水はコントロールされているか

福島原発では、放射能を含む汚染水が増え続けており、遮水壁を作ったり、タンクに保管するなど、外部に漏れ出すのを防ぐ努力をしているが、ほぼ限界に来ているのではないか。実体を紹介し、どうすべきかを考えたい。(末永和幸)

- 日時 6月8日(土曜日)14時~16時
- 会場 ウェスタ川越1階多目的ホールD
- 交通 東武東上線川越駅西口から徒歩5分
- 主催 地学団体研究会(地団研)埼玉支部
- 参加 無料(事前申込みも不要です)
- 連絡 090-4241-5064(久津間)

## 今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

5月23日、6月27日、7月25日(第4木曜日10時~12時)  
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室